

壓倒的勢力を以て流入するが故に極不の漸次發展を遂げ、漸次交通産業の發達は是迄不及格な發展の一つである。王子軌道も今其の階級を進みつゝあり、昨十四年より本年にかけての軌道は近頃は東京に於ける赤羽線・兩河大塚早稲田間、近畿計画直ぐは如何に其の實際が水を龍井に為つたか、又水に伴ふて従業員及採掘者の増加も當然の結果として行はれねばならぬ。然し事業の發展發展には其の根本から絶対に賛成し善いものがある。

斯うした發達段階を通過し行程を遂げ時事業主の經濟宜しきを擇ぶるならは種々の社會政策的實施を要する。今日に於て甚悪た不適当にして時代の進進に伴はざるが故に、業の發達と有りては是等は事業の減退を兼ね、與れあふを以て宜しく遂かにこれが根本的行業を認むべき事都及知能に於ける交通産業の根本的萌芽基礎の確立と計り尚不合理な事、諸規定の改訂を要望し以ては百又は百額に一歩を進めて嘆願するに至りしものがある。

一、新功加俸支給の件

### 嘆 願 理 由

社會に於ける生産課程の必然的存在は企業資本と共に賃金労働者である。此の労働者なくしては如何なる生産も如何なる産業も其の本質的有生産課程の段階を通過することは出来ぬ。

然し他方資本産業とそれによる労働生産との間には常に相入れあふ一つの利害があり、其の利害こそは所謂近代の勞資兩階級の階級的な争の發達段階があらねばならぬ。此の係争衝突こそは兩者の間に行けり利害の不均衡より来たるものなり。このことはあまりに明白の理である。然しに社會組織下に於ける特殊労働者の一般を思ふ時其処には殊に電車従業員としての特殊な労働條件と特殊な賃金條件の二つに束縛せられ、日常の労働に使役せられねばならぬ。それは、

一、工場労働者及自由労働者等に見られざる責任附帯